

学校だより

令和8年度 第5号

2026年(令和8年) 8月22日発行

Website: <http://www.jls-cincinnati.edu/>

Email : jls_office@nku.edu

Phone : 859-572-6197

備えあれば憂いなし ～ 暮らしの中に心の備えを ～

今年の夏も、日本各地から自然災害のニュースが届いています。先月には熊本県で大きな地震が発生し、千葉県などでは大雨による洪水被害も起きました。本校に通うご家庭の中にも、被災された地域にご家族やご親族、お知り合いの方がいらっしゃると思います。被害に遭われた皆様に、心よりお見舞い申し上げます。一日も早く平穏な生活を取り戻されますことを、心よりお祈りいたします。

先日、2年前の学校だよりを読み返していて、少し驚きました。2年前の8月にも、日向灘を震源とするマグニチュード7.1、最大震度6弱の地震が発生し、南海トラフ地震臨時情報が初めて発表されていました。今年も、似たような時期に大きな災害が起きています。もちろん、これらに直接的な関係があるわけではありませんが、「災害はいつ、どこで起こるか分からない」ということを改めて感じます。

そして、私たちが暮らすシンシナティ周辺でも、8月11日には激しい暴風雨に見舞われ、トルネード警報も発令されました。各地で木が倒れたり電線が切れたりし、地域によっては一週間近く停電が続いたところもありました。災害は決して遠いところで起きているものではなく、私たちのすぐそばでも起こり得るものなのだと実感させられました。

「備えあれば憂いなし」という言葉があります。災害に備えて水や食料、懐中電灯などを準備しておくことはもちろん大切ですが、もう一つ大切なのが「心の備え」ではないでしょうか。

地震が起きたらどうするか。大雨やトルネードのときにはどこへ避難するか。停電したらどうするか。家族と連絡が取れないときはどうするか。こうしたことを、実際に災害が起きてから考えるのではなく、平穏な今のうちに家族で話しておくことも、大切な備えです。

災害を必要以上に恐れて、いつも緊張して生活する必要はありません。しかし、「もし今、何かが起きたらどうする？」と時々考えておくことで、いざというときに落ち着いて行動できる可能性は高まります。そして、その「心の備え」は、いつでも、誰でも、すぐに始めることができます。

日本でも、アメリカでも、そして世界のどこにいても、災害を完全になくすことはできません。だからこそ、恐れるだけで終わらせるのではなく、「自分たちにできることは何か」を考えておきたいものです。

災害が起きなかったときに「準備して損をした」と考えるのではなく、「何も起こらなかったからこそ、安心して毎日を過ごすことができた」と考える。そんな気持ちで、日々の暮らしの中に無理のない「備え」を取り入れていきたいと思います。

楽しかったね！！ 幼稚部夏祭り

8月15日(土)に毎年恒例の幼稚部夏祭りが行われました。水鉄砲の射的、輪投げ、ヨーヨー釣り、宝探し、手裏剣投的、シャボン玉、スイカ割り、たくさんのお楽しみが用意されていて、楽しいひと時をすごすことができましたね。事前の準備から当日の運営までご協力をいただきました保護者の皆様、どうもありがとうございました。

